

水銀排出施設設置（使用、変更）届出書

年 月 日

名古屋市長 様

届出者 郵便番号 ○○○-○○○○
住 所 名古屋市○○区○○町○○番地

名 称 株式会社○○
代表者氏名 代表取締役 ○○ ○○

連絡責任者 職 氏名 ○○課長 ○○ ○○
電 話 (○○○) ○○○-○○○○

大気汚染防止法第 18 条の 28 第 1 項（第 18 条の 29 第 1 項、第 18 条の 30 第 1 項）の規定により、水銀排出施設について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の 名 称	○○工場	・施行規則別表第3の3に掲げる項番号及び名称 ・複数当てはまる場合は、主たる目的のものを記入 ・ばい煙発生施設の届出と一致しない場合も想定される（主たる目的ではないが、水銀排出施設に該当する事業を行っている場合も届出が必要）
工場又は事業場の 所 在 地	○○区○○町○番○号	
水銀排出施設の 種類	8 廃棄物焼却炉（2基）	
水銀排出施設の 構造	別紙1のとおり。	※審 査 結 果
水銀排出施設の 使用の方法	別紙2のとおり。	添付書類（施行規則第10条の5第2項） 一 水銀等の排出の方法（排出ガスの系統、煙突の概要） 二 水銀排出施設及び水銀等の処理施設の設置場所（見取り図） 三 水銀等の排出及び水銀等の処理に係る操業の系統の概要 四 煙道に排出ガスの測定箇所が設けられている場合は、その場所 五 緊急連絡用の電話番号その他緊急時における連絡方法（上記連絡責任者） 別紙1 水銀排出施設の構造概要図（カタログ） 別紙3 水銀等の処理施設の構造図及びその主要寸法を記入した概要図
水銀等の処理の 方法	別紙3のとおり。	
参考事項		

備考

1 水銀排出施設の種類の欄には、大気汚染防止法施行規則（以下「施行規則」という。）別表第3の3に掲げる項番号及び名称を記載すること。

2 ※印の欄には、記載しないこと。

3 変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。

4 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格 A4 とすること。

5 参考事項の欄に、施行規則様式第1による届出年月日を記載する場合であつて、名古屋市長が別紙1～3の全部又は一部を添付することを要しないと認めるときは、別紙1～3の全部又は一部を省略することができる。

水銀排出施設の構造

・水銀排出施設の構造概要図(カタログ)を添付

工場又は事業場における施設番号		1 号炉	2 号炉	・施設番号は、ばい煙発生施設と整合を図る (別紙 2・3 も同じ)
名 称 及 び 型 式		No. 1 焼却炉 産業廃棄物用バッチ式	No. 2 焼却炉 産業廃棄物用バッチ式	
設 置 年 月 日		平成〇〇年〇〇月〇〇日	平成〇〇年〇〇月〇〇日	・使用届出の場合は、 設置年月日を記載
着 手 予 定 年 月 日		年 月 日	年 月 日	
使 用 開 始 予 定 年 月 日		年 月 日	年 月 日	
規 模	燃 料 の 燃 焼 能 力 (重油換算 L/h)			・施行規則別表第3の3の中欄に規定する項目のいずれかを記載 廃棄物焼却炉は①か② (又は両方) ・ただし、石炭ボイラーは、燃料燃焼能力欄の記入は必須 ⇒10 万 L/h で排出基準が異なる
	原料の処理能力 (t /h)			
	① 火格子面積又は羽口面断面積 (m ²)	1 0 m ²		
	変圧器の定格容量 (kVA)			
	② 焼却能力 (kg/h)		10, 000 kg/h	

備考

- 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 規模の欄には、大気汚染防止法施行規則別表第3の3の中欄に規定する項目について記載すること。
- 3 水銀排出施設の構造概要図を添付すること。概要図は、主要寸法を記入し、日本産業規格 A4 の大きさに縮小したもの又は既存図面等を用いること。ただし、参考事項の欄に、施行規則様式第1による届出年月日を記載する場合であつて、名古屋市長が構造概要図を添付することを要しないと認めるときは、当該概要図の添付を省略することができる。

・ばい煙発生施設の届出時に添付した概要図の提出をお願いします

水銀排出施設の使用の方法

工場又は事業場における 施設番号		1号炉		2号炉	
使用状況	1日の使用時間 及び月使用日数等	8時～17時 時間/回 回/日 28日/月		0時～24時 時間/回 回/日 30日/月	
	季節変動	通年		通年	
原材料 (水銀等の排出に影響のあるものに限る。)	種類	廃プラ、廃油		木くず、汚泥	
	使用割合	廃プラ：廃油 = 1 : 1		木くず、汚泥 = 1 : 3	
	原材料中の水銀等 含有割合	廃プラ：0.2mg/kg 廃油：0.01mg/kg		木くず：0.3mg/kg 汚泥：0.02mg/kg	
	1日の使用量	10t/d		150t/d	
燃料 (水銀等の排出に影響のあるものに限る。)	種類				
	燃料中の水銀等の 含有割合				
	通常の使用量				
	混焼割合				
排出ガス量 (m ³ /h)	湿り	最大 34,000	通常 31,500	最大 440,000	通常 380,000
	乾き	最大 28,000	通常 26,000	最大 350,000	通常 290,000
排出ガス中の酸素濃度 (%)		6.3%		11.5%	
水銀濃度 (μg/m ³)	全水銀	0.34 μg/Nm ³		1.6 μg/Nm ³	
	ガス状水銀	0.30 μg/Nm ³		1.5 μg/Nm ³	
	粒子状水銀	0.04 μg/Nm ³		0.10 μg/Nm ³	
	事項				

・代表値や平均値を記載すること。
 ・幅記載することでも差し支えない。
 ・水銀含有量の測定が不可能な場合は、空欄でも差し支えない。
 (例：梱包された状態での処理が求められる感染性廃棄物)

・乾きガス中の濃度(平均的な濃度)。
 ・水銀等の処理施設がある場合には、処理後の濃度。
 ・届出の時点で実測値が得られない場合は設計値等でも可(ただし、定期測定の結果と大きく異なる場合は変更届出を提出)

・標準酸素濃度に換算後の結果を記載

備考

- 1 排出ガス量については、温度が零度であつて圧力が1気圧の状態(この項において「標準状態」という。)における量に、水銀濃度については、標準状態における排出ガス1立方メートル中の量に、それぞれ換算したものとする。
- 2 水銀濃度は、乾きガス中の濃度とし、平常時の平均的な濃度を記載すること。
- 3 水銀濃度は、水銀等の処理施設がある場合には、処理後の濃度とすること。
- 4 参考事項の欄には、水銀等の排出状況に著しい変動がある施設についての一工程の排出量の変動の状況、水銀等の排出抑制のために採っている方法等を記載すること。

・水銀等の処理施設の構造図
及びその主要寸法を記入した
概要図を添付

水銀等の処理の方法

水銀等の処理施設の工場又は事業場における施設番号			系統 1		系統 2		・処理施設番号、種類・名称は、ばい煙発生施設と整合を図る
処理に係る水銀排出施設の工場又は事業場における施設番号			1 号炉		2 号炉		
水銀等の処理施設の種類、名称及び型式			ろ過式集じん機 AB 型		湿式集じん機 CD 型		
設置年月日			平成〇〇年〇〇月〇〇日		平成〇〇年〇〇月〇〇日		
着手予定年月日			年 月 日		・水銀等の大気排出抑制に効果があると考えられる排出ガス処理設備について記載 (例：電気集じん機、スクラバー)		
使用開始予定年月日			年 月 日				
処理能力	排出ガス量 (m^3/h)	湿り	最大 34,000 通常 31,500		最大 440,000 通常 380,000		
		乾き	最大 28,000 通常 26,000		最大 350,000 通常 290,000		
	排出ガス温度 (°C)	処理前	160°C		150°C		
		処理後	145°C		140°C		
	排出ガス中の酸素濃度 (%)		6.3%				・乾きガス中の濃度(平均的な濃度) ・施設の構造上の理由などにより測定が不可能な場合においては、「処理前」「捕集効率」の欄は空欄でもよい。 ・届出の時点で実測値が得られない場合は設計値等でも可(ただし、定期測定の結果と大きく異なる場合は変更届出を提出)
	水銀濃度 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	全水銀	処理前	3.8 $\mu\text{g}/\text{Nm}^3$		8.5 $\mu\text{g}/\text{Nm}^3$	
			処理後	0.34 $\mu\text{g}/\text{Nm}^3$		1.6 $\mu\text{g}/\text{Nm}^3$	
		ガス状水銀	処理前	3.0 $\mu\text{g}/\text{Nm}^3$		7.5 $\mu\text{g}/\text{Nm}^3$	
			処理後	0.30 $\mu\text{g}/\text{Nm}^3$		1.5 $\mu\text{g}/\text{Nm}^3$	
	粒子状水銀	処理前	0.80 $\mu\text{g}/\text{Nm}^3$		1.0 $\mu\text{g}/\text{Nm}^3$		
		処理後	0.04 $\mu\text{g}/\text{Nm}^3$		0.10 $\mu\text{g}/\text{Nm}^3$		
	全水銀		91%		81%		
捕集効率 (%)	ガス状水銀	90%		80%			
	粒子状水銀	95%		90%			
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等	8時～17時 時間/回 回/日 28日/月		0時～24時 時間/回 回/日 30日/月			
	季節変動	通年		通年			

・標準酸素濃度に換算後の結果を記載

備考

- 1 水銀排出施設において発生する水銀等を排出口から大気中に排出する前に処理するための施設(集じん機等)について、記載すること。
- 2 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
- 3 排出ガス量については、温度が零度であつて圧力が1気圧の状態(この項において「標準状態」という。)における量に、水銀濃度については、標準状態における排出ガス1立方メートル中の量に、それぞれ換算したものとする。
- 4 水銀濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
- 5 水銀等の処理施設の構造図及びその主要寸法を記入した概要図を添付すること。ただし、参考事項の欄に、施行規則様式第1による届出年月日を記載する場合であつて、名古屋市長が当該構造図及び概要図を添付することを要しないと認めるときは、当該構造図及び概要図の添付を省略することができる。

・ばい煙発生施設の届出時に添付した構造図及び概要図の提出をお願いします